特集 人 すぎなみビト

すぎなみ地域大学　学長

金田一秀穂

地域でつながり世界を広げる

区民の地域活動に役立つさまざまな講座を開講する「すぎなみ地域大学」。今春より3代目学長を務めるのは、言葉に関する分かりやすい解説と優しい笑顔でおなじみ、言語学者・金田一秀穂さんです。地元である杉並の魅力、言葉の専門家を志したエピソードのほか、言語学者の視点からコミュニケーションとは何かを語っていただきます。

14・15面をご覧ください

オーケストラの奏でる美しい音色をあなたに

日本フィル杉並公会堂シリーズ

《天才の栄光と孤独 ― モーツァルトの光と翳（かげ）》世界の頂点を極める“アンサンブルの名匠”、原田幸一郎がいざなう「古典名曲への旅」。

最難関ミュンヘン国際コンクール・チェロ部門で日本人初優勝の栄光に輝いた、佐藤晴真と共演します。ぜひ、お越しください。

――問い合わせは、文化・交流課文化振興担当へ。

時 11月27日㈰午後3時～5時　場 杉並公会堂（上荻1-23-15）　内 **出演**＝原田幸一郎（指揮）、佐藤晴真（チェロ）▶**曲目**＝ハイドン「チェロ協奏曲第1番」、モーツァルト「交響曲第40番」ほか　対 小学生以上の方　費 S席5300円。A席4200円。B席3100円（いずれも指定席）　申 **チケット販売窓口**＝7月31日から電話で、杉並公会堂☎**5347-4450**（午前10時～午後7時）。またはチケットぴあ（**Pコード＝218-014**）　他 託児あり（事前申込制・有料〈電話で、マザーズ☎**0120-788-222**〉）

▲原田幸一郎

▲佐藤晴真

子ども夢シートプログラム

上記のコンサートに、3組6名を招待します。

対 区内在住の小学4年生～中学生のお子さんとその保護者　申 Eメール（10面記入例）に学年・保護者氏名も書いて、7月31日までに文化・交流課✉**bunka-k@city.suginami.lg.jp**　他 結果は8月中に通知

新型コロナウイルス感染症

区内でも新規感染者が増加しています。 発熱等の症状がある場合は、まずは**電話でかかりつけ医へ**ご相談ください。

◆かかりつけ医がいない、相談する医療機関に迷う場合は右記に電話してください。

杉並区受診・相談センター
☎**050-3665-7979**
（午前9時～午後5時〈土・日曜日、祝日を含む〉）

東京都発熱相談センター
☎**03-5320-4592**、☎**03-6258-5780**
（いずれも24時間〈年中無休〉）

「言葉の壁」はない。意味を理解しなくてもコミュニケーションはできます

プロフィール：金田一秀穂（きんだいち・ひでほ） 昭和28年杉並区生まれ。上智大学文学部心理学科卒業。東京外国語大学大学院日本語学専攻課程修了。中国大連（だいれん）外語学院、米イェール大学、コロンビア大学などで日本語講師として日本語教育に従事。昭和63年より杏林大学で教壇に立ち始め、現在同大学名誉教授。多くの著書を持ちテレビなどでも活躍中。令和4年4月、「すぎなみ地域大学」３代目学長に就任。

僕にとっての田舎、温かい故郷が杉並のまち

―先生は長く杉並に住んでいらっしゃいますね。

生まれたのは西荻窪の松庵。そこで少年時代を過ごしました。近所の久我山あたりは当時家も何も建っていなくて、田んぼと畑と雑木林があるだけ。道もまだ砂利道で、ただぶらぶら歩いているだけで楽しかった。大学時代は阿佐谷にある祖父の家で過ごしました。その後、結婚して海外での暮らしも経て、帰国後はずっと成田東に住まいを構えています。

―杉並のどんなところが気に入っていますか？

杉並は非常に便利ですよね。特に今住んでいる南阿佐谷周辺はとっても便利。阿佐ケ谷姉妹が言うには、この辺りは「杉並の霞が関」なのだそうです。確かに区役所や税務署、警察署、消防署、公共機関が見事にそろっている。僕としては郵便局が近いことが気に入っていて、留守中に荷物が届いた時、すぐに取りに行けるからとても助かっています。それから、丸ノ内線に乗ればあっという間に新宿のデパートに行けるのも便利。一方で家の近くにはパールセンター商店街もあって、魅力的な個人商店がいくつもあるのがいいなと思っています。

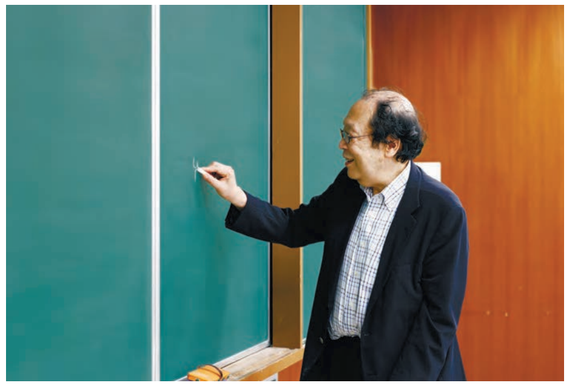
―まちの雰囲気、住み心地はいかがですか？

緑の豊かさも感じますね。大きな公園があるし、川沿いは春になると桜が咲くし、中杉通りのけやき並木もとてもすてきです。それから、文化的な薫りもある。かつては井伏鱒二、太宰治、今は例えば谷川さん（詩人の谷川俊太郎さん）など、古くから文化人が多く暮らした影響なのか、落ち着いた文化を感じるのは杉並らしいところではないでしょうか。人って生まれる場所は選べないけれど、その先は選ぶこともできる。きっと僕は人生の最期も杉並で過ごすことを選ぶと思います。他所から見れば「どこが田舎なの」と思うかもしれないけれど、杉並は僕にとっての田舎、温かい故郷なんです。

狭い世界を広げたくて。言語学者として海外へ

―言語学者の祖父、父の下で育った先生。どんなご家庭でしたか？

母が東京の下町出身だったので、子ども時代は昔ながらの江戸言葉になじんでいました。しょうゆを「おしたじ（御下地）」なんて言ったりして。祖父と父は言語学者ですが、言葉に厳しいことは一切なくて。でも家庭の会話の中で「アクセント」とか「方言」といったワードが日常的に出てきていたので、確かに少し変わった家ではあったのかもしれません。



―先生も祖父や父と同じ言語学の道を志したのはなぜだったのですか？

子どもの頃から、いつか外国へ行きたいと思っていました。「自分は狭い世界にいるな」と思い込んでいて。井の中の蛙なんて言いますが、考えてみれば人は誰しもそうですよね。井戸から出たいけど出られない。でも、それなら自分が住んでいる井戸を少しでも広げてみたい。そんな思いが原点にあったのでしょう。外国へ行って井戸が広がっていくことで、自分自身が何者なのか、はっきりと分かる気がしたんです。当初は文化人類学のような分野を学びたいと考えていたのですが、ある時、父から日本語教師になれば外国へ行けると聞いて。「よし、日本語なんて簡単だい！」と、この道へ進んだわけです。とても不純な動機です（笑）。

―どんな学問を、どんな国で教えてこられたのですか？

僕の専門は広くは現代日本語、細かく言えば日本語教育。言語行動、つまり「言葉を僕らはどう使っているのか？」という学問です。これまで中国、アメリカで教え、日本でも教えた後にまたブラジル、インドネシアなどさまざまな国で日本語を教えてきました。いろんな国の文化に触れて、それぞれの国にあるそれぞれの言葉、全てがすてきだと感じています。どんな言葉にも魅力があります。

―先生は日本語をどんな言語だと捉えていますか？

意外に思うかもしれませんが、世界の言語の中でも日本語はとても易しいんですよ。外国から来た人に対して日本では「言葉の壁」なんて言うけれど、僕からすればそんなものはないです。読み書きは確かに難しいけれど、発音そのものはすごく易しい。例えば英語は発音の種類が3万以上ありますが、日本語は100程度。話すことならすぐにできるようになります。「言葉の壁」と表現するのは、どこか相手に対する拒否の気持ちを含んでいるからではないのかな。実際は日本語はとても易しいのだと、ぜひ知ってほしいです。

コミュニケーションとは話すことだけではない

―地域で暮らす人と人とをつなぐ意義も果たす地域大学。先生が改めて思う、コミュニケーションとは何ですか？

コミュニケーションというのは言葉だけではありません。だって、猫や犬は言葉は使えないけれど、「エサやるからな」と言えば「ふーん」といった感じで応えますよね。コミュニケーションができている。意味を理解しなくても、言葉には「話す人の気持ちをくんでいる」という面があって、コミュニケーションにおいてはむしろそちらの方がよっぽど大切だったりします。

―なるほど、言葉だけではないのですね。

それから、コロナ禍でよく考えるのは、コミュニケーションで「気配を感じる」というのは重要だということ。僕もリモートでやりとりする機会が増えているけれど、それでは何かくみ取れない部分があると感じるのは、やはりリモートでは気配を感じさせにくいからなのかなと思います。メールなどで文字を交換し合うだけでは、相手の感情や肌で感じるその場の空気などが不十分になってしまう。だから僕らは言語に温かみを与えるためにいろいろと工夫するわけです。その中でやはり一番は、「会う」ことではないでしょうか。なんといっても人間が20万年やってきたコミュニケーションですからね。

すぎなみ地域大学 8・9月開講講座の受講生募集中

すぎなみ地域大学は、地域活動に必要なスキルを身に付けるための学びの場です。地域活動を始めたいと思っている方に、日常生活で役立つ講座から専門的な知識を学べる講座まで幅広く開講しています。

8・9月は「まちとつながる！まちあわせカフェ」「５つの力を身につけよう　活動前のスキルアップゼミ」「地域防災コーディネーター養成講座」「ゲートキーパー養成講座」「救急協力員講座」などを開講予定です。講座によっては、開講式・修了式に金田一学長がごあいさつをします。

詳細は、すぎなみ地域大学ホームページ（右2次元コード）をご覧ください。

―コミュニケーションにおけるアドバイスはありますか？

最近は何かと「コミュ力（りょく）（コミュニケーション能力）」といって、うまく話せるかどうかを気にし過ぎていると思います。でも、それはそんなに大事な能力ではないと思います。僕もコミュ力ないですよ。人見知りですし、床屋に行くのは大の苦手。コミュニケーションというのは、会うこと、気配を感じさせること、それから表情やしぐさ。そういう全てを含んで成り立っているもの。話すことが苦手な人はたくさんいて、それは個性だし、いろんなコミュニケーションがあるのだから、気にすることはありません。

―地域大学に興味を持っている区民の皆さんに伝えたいことは何ですか？

地域大学に参加する皆さんとお会いして、自身が持っている力を貸したい、手を貸したいと思っている方が多い印象を受け、ありがたいことだと感じました。地域活動をする中では、それぞれの人が楽しくいられることがとても大切です。地域のために役に立つかどうか以上に、皆さんが自分のために活動できるといいなと思います。一人一人が楽しんで充実感を持てれば、それはすごく幸せなことだし、周囲も地域も幸せになっていきます。ボランティアは贈与の原理で行われるもので、それで多くの方が満足感を得られるのは素晴らしいことです。その活動を区が支えていければ理想的。僕自身も楽しみながら、皆さんを応援していきたいと思います。

YouTubeで配信中！

紙面には掲載しきれなかった取材のこぼれ話も動画で紹介しています。

すぎなみビト MOVIE

すぎなみビト「金田一秀穂さん」のインタビューが動画でも楽しめます。右2次元コードからご覧いただけます。

杉並区公式チャンネル

すぎなみビト…区内外で活躍する区民などの紹介を通して、地域の魅力を発信していきます（毎月15日号に掲載）。